



県内4カ所目 後援会支部発足

4/22 山雅後援会安曇野支部発足式

市がホームタウンとなっているサッカーJ2・松本山雅FCの支援組織「山雅後援会」(井上保会長・松本市)の安曇野支部の発足式が4月22日、安曇野スイス村サンモリッツ(豊科南穂高)で行われました。当日は、関係者約100人が出席。井上会長から支部長の辻谷洋一さん(穂高有明)に支部認証書が手渡されました。辻谷さんは「会員を増やし、美化活動など地域に根差した活動もしながら、山雅や地域を盛り上げていきたい」と話しました。同支部は、上田、塩尻、南信州に続き県内4カ所目の地域支部になります。



春の安曇野に歌声が響く

4/29 第31回早春賦まつり

第31回早春賦まつり(実行委員会主催)が4月29日、穂高川右岸の早春賦歌碑前で行われました。この日は、肌寒さを感じる曇り空でしたが、県内外から約300人が参加。アルパの美しい音色に乗って、早春賦が安曇野に響き渡りました。千葉県から参加した浅野忠義さんは「早春賦に関する催しがあることを知り楽しみに来ました」と笑顔で話してくれました。

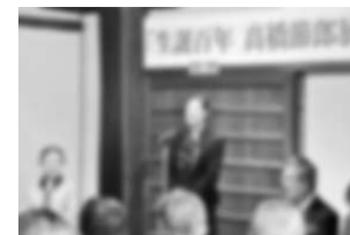
高橋節郎さん 生誕100年

4/26 生誕百年 高橋節郎展

穂高出身で名誉市民の故高橋節郎さんの「生誕百年高橋節郎展」が、4月26日から安曇野高橋節郎記念美術館と安曇野市豊科近代美術館の両美術館で始まりました。今回の展覧会では、幻想あふれる雄大なイメージを漆黒と黄金で表現した代表作品とともに、高橋さんの息遣いが残るスケッチやデッサン、作品の原画等を合わせて紹介し、その人と芸術の全貌を振り返っています。

26日に安曇野高橋節郎記念美術館主屋で行われた開会式には、市や美術館、教育委員会などの関係者、約100人が出席。夫人の高橋千笑さんは「コツコツと仕事をすることで、生前“私の心の宝物は安曇野だ”と語っていました。今回の180点の作品には、ふるさとへの思いが込められているので、多くの人に楽しんでほしい」とあいさつしました。

なお、この企画展は、6月1日まで開催され、期間中には生誕100年を記念した講座や記念講演会、バスツアーなどさまざまな催しが行われます。



豊科近代美術館に展示されている「星座物語」。少年時代に安曇野で見た星空が漆黒と黄金などで屏風に描かれています。(写真上)

400字の小説 大賞受賞

4/23 12歳の文学賞大賞受賞報告

全国の小学生を対象とした「12歳の文学賞・はがき小説部門」(小学館主催)で大賞を受賞した三好なつ実さん(明北小6年)が4月23日、本庁舎で宮澤市長を表敬訪問しました。宮澤市長からは受賞を讃える表彰状が三好さんに手渡されました。はがき小説部門は、はがきに400字以内で小説を書くもので、受賞作品は、携帯電話を題材に、自分の気持ちを素直に表現できない女の子の姿を描いています。将来は、小説家など文章を書く仕事をしたいという三好さんは「大賞を取れてとてもうれしいです」と受賞の喜びを話しました。



新社会人を激励

4/17 新規学卒就職者歓迎会

新規学卒就職者歓迎会(市商工会主催)が4月17日、安曇野穂高ビューホテル(穂高牧)で開催されました。本年度は、市内39社に99人が就職。当日は26社から50人が参加しました。市商工会の齊藤正昭会長は「誠実さと真心を大切に、企業の中で存在感を示して欲しい」と激励しました。市内の金融機関に配属された岡江亮太さん(松川村)は「社会人として、責任を持って仕事に励みたい」と話しました。また、式の後には、研修会も行われ、参加者は食事を取りながらテーブルマナーを学びました。

安曇野の自然と文化を体感

4/26 国営アルプスあづみの公園・田園文化ゾーン北地区開園

国営アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区)の「田園文化ゾーン北地区」が完成し4月26日、開園式が穂高牧の同公園穂高口前で行われました。式典には、国や県、市などの関係者約100人が参加。テープカットや小学生によるくす玉割りのほか、来園者には、安曇野市産米「風さやか」のおにぎりが振る舞われました。

今回開園した部分は、約17畝の広さで、花畑や安曇野の民話を題材にしたアスレチック遊具、古墳の森、円形ステージなど安曇野の自然や文化を体験できるようになっています。北地区の開園により同公園の「田園文化ゾーン」が完成しました。

開園式に参加した石垣愛梨さん(穂高西小4年)は「いろいろな遊具があって楽しいです。時間があればずっと遊んでみたいです」と話しました。

